

宜野湾市伊佐・大山 宇地泊周辺地域の鳥類と哺乳類

嵩 原 建 二

(沖縄県立博物館)

The Birds and Mammals of the Isa, Oyama and Uchidomari, Ginowan city, in the Central Part of Okinawa-jima, Southwestern Islands of Japan.

Kenji TAKEHARA

(Okinawa Prefectural Museum)

Abstract : The birds and mammals were surveyed from 1991 to 1994 in Isa, Oyama and Uchidomari of Ginowan city in the central part of Okinawa-jima. 95 species of birds and 4 species of mammals were recorded in these areas.

The above-mentioned birds were classified into 4 types by their life styles and their distribution. They are resident, 22 species; summer visitor, 4 species; winter visitor and transient 67 species; and accidental, 2 species.

Especially, the Japanese house bat, *pipistrellus abramus*, was rediscovered in Okinawa-jima after some ten years.

はじめに

沖縄本島中部に位置する宜野湾市の西海岸に面した大山から宇地泊にかけての地域は、豊富なわき水を利用した田イモ（ミズイモ）栽培が盛んで、県内でも有数の一大産地となっている。このためこの地域一帯は湿地帯が広がり、放置された農耕地や未利用地にはヒメガマ、セイコノヨシなどの湿地性の植物も多く見られ、その周辺には水辺を利用する野鳥の生息も数多い。

本地域における鳥類記録としては、沖縄野鳥研究会（1986, 1993）によってマガン、ヘラシギ、アカツクシガモ、オカヨシガモ、ウミアイサ、シマアジなど15種の鳥類が写真

撮影されている。しかしながら、鳥類の記録としては断片的で、まとまった形での鳥類報告はみあたらない。また、本地域に生息する哺乳類についても、その調査報告は乏しいようと思える。

筆者はこの田イモ畑やその周辺地域の鳥類相を明らかにし、環境保全を検討する基礎資料や自然観察に必要な資料を得るために、本地域の鳥類を中心に調査を実施した。また、鳥類調査と並行して本地域に生息する哺乳類についても資料収集につとめ、若干の知見を得たので報告する。

本報告が本地域の鳥相や哺乳類相を知る手がかりになり、また隣接する小中学校等における野外観察や環境教育の資料として、あるいは本地域の環境保全を検討する基礎的な資料として活用されることになれば幸いである。

なお、本報告をまとめることに際し、沖縄国際大学の宮城邦治氏、美里高校の丸山勝彦氏に有益な助言をいただいた。また、貴重な資料を提供していただいた沖縄野鳥研究会の比嘉邦昭氏、大城亀信氏の両氏、宜野湾市役所農林課に対し、厚く感謝申し上げる。

調査地及び調査方法

調査地の範囲は、Fig.1に示したように宜野湾市側の国道58号線から西側の海岸線に広がる伊佐・大山・真志喜・宇地泊地域及びその周辺地域である。

調査地形は普天間飛行場の西側に広がる琉球石灰岩がけずられてできた海岸段丘から、海岸に向かって緩やかに傾斜した地形をなしている。この地域に住宅地や農耕地が形成されている。

地質は概ね琉球石灰岩やこれが風化した島尻マージであるが、海岸近くでは砂質及び粘土質の湿地土壤が見られる。伊佐からコンベンションホールに至る宜野湾バイパス道路から西側にあたる地域は埋め立て地であり、海底から採取した砂質コーラルが敷き詰められている。段丘斜面には18カ所の湧水が認められ、集落の重要な水資源となったことが考えられる。

本地域では戦前は主としてサトウキビや稻が栽培作物の中心であったと言われるが、戦後は豊富な湧き水を利用した田イモ栽培が中心となってきて、現在では県内でも有数の特産地のひとつとなっている（Photo. 1, 2）。

調査地の環境としては、大山及び宇地泊地域は農耕地としての田イモ畑やヒメガマ、ツルヨシ、セイコノヨシ、フトイ、パラグラスなどの生い茂る草原化した休耕地がある。大山の田イモ畑に隣接する宜野湾バイパス道路沿いにはヨシの生える水路がある。この水路沿いにはアダン、イボタクサギなどかつての海岸林が残存的に残り、市内唯一のメヒルギ

が10数本認められる。

宇地泊地域には一部に自然の海岸線が残り、干潮時にはリーフが出現する遠浅の海岸となっているが、後背地は住宅地が主体で、一部の空き地にススキ、パラグラス等の草原や墓地がある。

伊佐及び真志喜地域はほとんどが住宅地であるが、海岸線近くの大部分は埋立後に建設された工場群、体育館と海浜公園、野球場、人工ビーチ、コンベンションホールなどの建造物で占められている。しかし、住宅地の一部には空き地があり、そこにはススキ、ツルヨシ、ヒメアブラススキ、パラグラス、タチアワユキセンダングサ、ギンネムなどが密生する環境もみられる。

調査の重点地域として、特に総面積 20.09ha（農家申告面積）におよぶ田イモ畑を中心 に鳥類の観察を行った。その場合大山地域のミズイモ畑は車道がないため、県道沿いの水路や田イモ畑の中央を南北に縦断する距離約 1km のあぜ道を歩きながら、片側 100m（両側 200m）で目撃される野鳥を記録するラインセンサス法で調査は実施した。

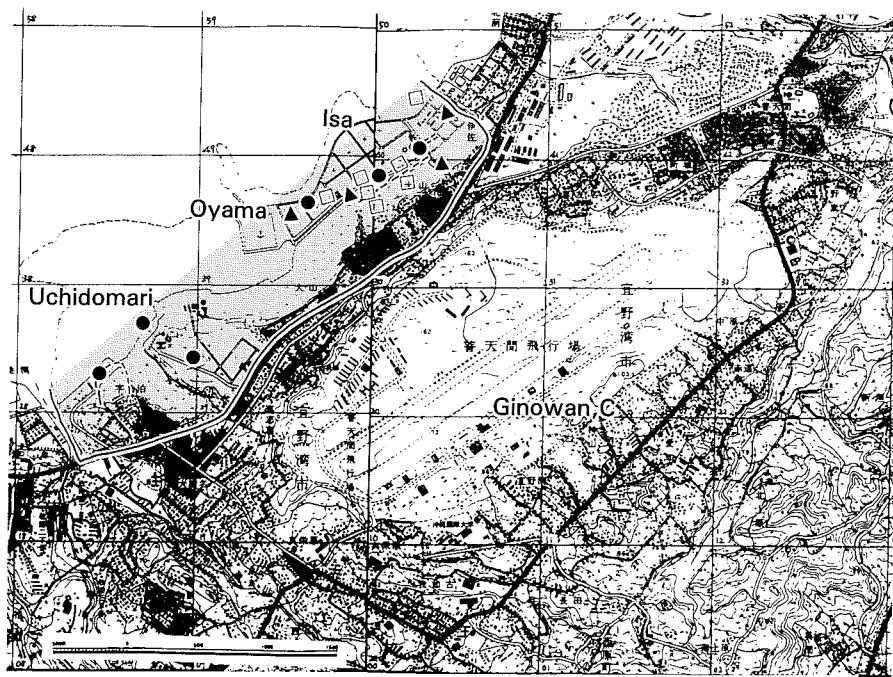


Fig.1. Study Area in Isa, Oyama and Uchidomari, Ginowan city.

〔Okinawa Prefectural Board of Education (1986) modified〕

Legend:

- Study area
- Study route of birds
- (●) Observing point of birds
- (△) Observing point of the flying fox (fruit bats)
- (□) Observing point of the Japanese house bats

一方、宇地泊地域には一部車道（距離0.5km）があるため、車上からのラインセンサスを中心に行った。この場合は車をブラインドかわりにすることができる、野鳥に警戒されることはなく鳥類調査をすすめることができるという利点がある。

鳥類調査は別に天然記念物調査用メッシュ図（沖縄県教育委員会作成）による定点調査も実施した。調査メッシュは調査地北部から392736-40（伊佐）、392736-30（大山）、392735-39（海浜公園）、392735-29（真志喜）、392735-28（宇地泊）の5メッシュである。

調査方法は、同一メッシュ内（1.25km×0.875km）での30分間以上の定点調査で目撃される鳥類を記録する方法で行った。

なお、鳥類調査資料の一部には、筆者自身が過去に本地域で観察記録した未発表の鳥類資料も活用した。

Phot.1, 2. The surroundings of study area in Taro-root fields (Oyama and Uchidomari.)



Photo.1 大山 (Oyama area)



Photo.2 宇地泊 (Uchidomari area)

哺乳類調査は鳥類調査と並行して実施し、同様な調査範囲及び方法によって、目撃される哺乳類を記録した。哺乳類については夜行性の種が主体であったため、大山地域では夜間調査も合わせて実施した。なお小型コウモリ類を同定するため、超音波を可聴音域に変換するサミット社製のバット・ディテクター（MINI-2 BAT DETECTOR）を使用した。

調査期間は、鳥類及び哺乳類のラインセンサス及び鳥類定点メッシュ調査とも1991年12月から1994年の2月までの延べ4年間で、調査期日は不定期に50回実施した（Table 1）。夜間調査は1991年9月、1992年9月、10月、12月と1993年9月に延べ9回実施した。

なお、鳥類目録作成にあたっては、その学名や順序について日本鳥学会（1974）に準じた。

Table 1. The outline of examination

Date	Time	weather	study area	Remarks
91/ 9/22	12:53-13:55	晴	大山	
91/ 9/23	18:45-21:00	晴	大山	夜間調査
91/11/ 9	12:05-12:50	晴	大山・伊佐	
91/12/ 1	- - - - -	晴	"	
91/12/ 3	13:00-13:30	晴	大山	
91/12/ 3	11:00-12:30	晴	"	
92/ 5/10	- - - - -	曇	"	
92/ 9/ 4	6:30- 6:50	曇	宇地泊	
92/ 9/ 8	- - - - -	晴	大山	
92/ 9/20	22:30-23:00	曇	大山	夜間調査
92/ 9/21	19:30-20:30	曇	大山	夜間調査
92/ 9/22	12:00-13:00	晴	大山	
92/ 9/23	18:45-20:45	晴	大山	夜間調査
92/ 9/24	5:35- 6:00	晴	大山	
92/ 9/27	18:49-19:00	晴	大山	夜間調査
92/10/ 1	18:00-19:00	晴	大山	"
92/10/ 4	9:00-10:00	晴	"	
92/10/ 7	9:30- 9:50	晴	"	
92/10/ 8	20:30-21:15	曇	大山	夜間調査
92/10/23	- - - - -	晴	"	
92/10/26	- - - - -	晴	"	
92/11/16	17:00-17:30	曇	大山	
92/11/19	10:00-12:05	晴	大山	
92/12/ 2	22:00-23:30	晴	"	夜間調査
93/ 1/ 6	- - - - -	晴	市民体育館	
93/ 4/ 7	7:50- 8:00	曇	伊佐	
93/ 4/12	7:50- 8:00	曇	伊佐・大山	
93/ 6/ 1	- - - - -	雨	宇地泊	
93/ 9/ 4	20:30-21:00	晴	大山	夜間調査
93/10/31	12:30-12:45	晴	宇地泊	

Date	Time	weather	study area	Remarks
93/10/31	7:30- 8:30	晴	大山	
93/11/14	6:30-12:00	晴	宇地泊	
93/11/29	- - - - -	晴	伊佐	
93/12/ 2	15:00-15:15	曇	"	
93/12/11	6:50- 7:43	曇	伊佐・大山	
93/12/12	9:44-10:00	晴	宇地泊	
93/12/12	11:00-12:00	晴	海浜公園	
93/12/18	8:17- 8:28	曇	伊佐	
93/12/18	8:28- 8:55	曇	大山	
93/12/19	13:00-13:20	小雨	宇地泊	
93/12/19	14:00-14:30	小雨	宇地泊	
93/12/25	10:55-11:57	晴	伊佐・大山	
93/12/28	15:57-16:07	曇	宇地泊	
94/ 1/ 7	17:45-18:15	曇	宇地泊	
94/ 1/10	14:00-14:30	晴	宇地泊	
94/ 1/15	16:35-17:00	晴	大山	
94/ 1/16	17:30-18:10	曇	宇地泊	
94/ 1/22	14:45-15:15	曇	真志喜	

延べ計50回 延べ大山30回、伊佐6回、宇地泊11回、その他3回

調査の結果と考察

(1) 鳥類調査の結果と考察

本調査で目撃された鳥類は85種であった。これに本地域から沖縄野鳥研究会（1986, 1993）によってすでに報告されている記録や未発表の資料などを加えてまとめてみると、「鳥類目録」に示したように10目28科（3亜科を含む）95種の鳥類（野生化した飼い鳥も含む）が記録されたことになる。その内訳は留鳥21種、夏鳥4種、旅鳥及び冬鳥68種、迷鳥2種であった。したがって、確認された鳥類の大部分が渡り鳥であることがわかる。また、出現した目についてみてみるとチドリ目が31種、スズメ目が24種、コウノトリ目10種、ガンカモ目が11種などとなり、出現した野鳥の大半がチドリ目やスズメ目で占められている。沖縄で確認されるチドリ目はチドリ科、シギ科、セイタカシギ科、タマシギ科、ヒレアシシギ科、レンカク科などを含み、その大部分が水辺を利用する旅鳥や冬鳥などの渡り鳥である。また、コウノトリ目のサギ科7種やガンカモ目のガンカモ科11種な

ども同様な渡り鳥が主体である。したがって、本地域はこうした渡り鳥の重要な渡来地（一部越冬地）となっており、さらに南に渡る体力を回復する中継地の役目を負っていると考えられる。

また、本地域で確認された留鳥は前述したように22種あったが、その中で繁殖が確認された種は、亜成鳥が目撃されたセッカ、ヒクイナ、アミハラ、バンの4種であった。これら以外では、ふつうに生息するスズメ、リュウキュウツバメ、キジバト、ヒヨドリ、シロガシラ、メジロ、リュウキュウヨシゴイ、シロハラクイナなど8種については、個体数や観察機会が多いことから本地域で繁殖している可能性が高い。

次に調査地別に出現した鳥類をみてみると、伊佐地域ではヒメアマツバメ、オオヨシキリ、サンコウチョウ、リュウキュウヨシゴイなど22種、大山の田イモ畑（16.87ha）周辺ではカワセミ、エリマキシギ、ムラサキサギ、ヒシクイなど49種、宇地泊の田イモ畑（3.22ha）周辺ではオグロシギ、マガン、オオハシシギ、セイタカシギなど64種であった。3地域の中では大山や宇地泊におけるが確認数が多い。特に宇地泊地域は調査環境として他の地域にはない自然の砂浜海岸が残り、干潮時にはリーフで餌をとることができるために、野鳥が集まることにより、その確認数が多くなっているものと思われる。しかも調査範囲を田イモ地域で比べれば、大山地域の約19%と小面積であり、また車の乗り入れができることによって、鳥類調査が容易にできることにも大きな要因があろう。

さらにメッシュ・コード別に5地域を調査した結果についてみてみると、その鳥類の出現についてはTable 2に示したように、大山における出現種数が18種と多く、宇地泊では10種、海浜公園と伊佐地域で9種、真志喜地域で4種の出現が見られた。したがって、大山地域における出現種数が多い傾向がある。これは環境として田イモ畑、アシの生えた水路、ヒメガマの茂る休耕地など多様な自然環境があることによるものであろう。

伊佐や真志喜などの住宅地周辺で出現した種は、スズメ、リュウキュウツバメ、アミハラ、ウグイス、イソヒヨドリ、セッカなどの留鳥が主体で種類数も少ない。やはり、環境として、緑地面積の乏しい住宅地が主体であることが、このことの大きな要因になっていると考えられる。しかしながら、これらの地域でも草原性のセッカが確認されている。ことは、一部に空き地があり、パラグラスやチガヤなどの草原化した環境があることによるものであると考えられる。

ラインセンサスや定点メッシュ調査結果により（Table 2）、大山や宇地泊の田イモ畑においては、市街地近くにありながら野鳥の生息する場所として貴重な地域となっていることが考えられる。もちろん、ここには野鳥以外の生物も数多く生息している。したがって、本地域の土地利用形態を維持していくことは、こうした野生生物の生息地の確保につながると同時に、自然観察や環境教育の場として活用できる場所にもなる。本地域では今後そ

Table 2, Study result by using a mesh map

メッシュコード	調査地名 環境	期日 調査時間	天気	出現種数	出 現 種 (数字は個体数)
392736-39	海浜公園 公園 運動場	1993/12/12 11:00-12:00	晴	9	スズメ3、キセキレイ1、シロガシラ3、メジロ4、ムナグロ1、リュウキュウツバメ1、ウグイス1、キジバト1、イソヒヨドリ1
392736-28	宇地泊 海岸 草原 住宅地	1993/12/19 14:00-14:30	小雨	10	キジバト1、スズメ10、リュウキュウツバメ3、キョウウジョンギ9、ハクセキレイ2、ムナグロ3、シロチドリ4、イソシギ1、キセキレイ2、シロガシラ1
392736-40	伊佐 住宅地 小河川 公園	1993/12/25 10:55-11:25	晴	9	シロガシラ1、ヒヨドリ3、リュウキュウツバメ2、スズメ7、セッカ1、ウグイス1、キセキレイ1、メジロ1、イソヒヨドリ1
392736-30	大山 田イモ畑 水路 道路	1993/12/25 11:27-11:57	晴	18	リュウキュウツバメ1、シロガシラ4、スズメ6、メジロ1、チドリ4、ムナグロ7、ヒヨドリ2、カワセミ1、セッカ2、サシバ1、キセキレイ1、タカブシギ1、ウグイス1、キジバト1、チュウサギ1、ハクセキレイ1、アミハラ1、イソヒヨドリ1
392736-29	真志喜 住宅地 公園	1993/1/22 14:45-15:15	曇	4	スズメ2、リュウキュウツバメ1、ヒヨドリ2、セッカ2

のことに留意し、環境保全に十分注意を払いながら活用を図ることが望まれる。

本地域で確認された鳥類の中で、記録的に興味深いと思われるいくつかの種類について、以下に述べる。

1, カワセミ *Alcedo atthis bengalensis* (Photo. 3)

カワセミ類では、カワセミの1種だけが確認された。本種は1991年12月3日と1993年12月25日、1994年1月15日の3回大山タイモ畑沿いの水路で採餌している各1個体が目撃された。1羽だけの確認であるので、番を形成して本地域で繁殖・定着しているかどうかについては不明である。河川の汚濁が進行する市街地では、すでに姿を消してしまったこの鳥が生息していることは、餌となる小魚がすめる水のきれいな河川があることの証明であり、本地域は意外に自然が保たれていることがわかる。しかしながら、近年川の汚れに強いグッピーやテラピアなどの移入された魚類の繁殖・分布にともない市街地へ再定着が各地で報告されている。したがって、本地域でこうしたことが生じている可能性もあるが、資料が乏しく詳細に検討することはできなかった。

2, ムラサキサギ *Ardea purpurea manilensis* (Photo. 4)

サギ類はダイサギやゴイサギなど10種確認されたが、ここでは記録的に興味あるムラ

サキサギについて述べる。

本種は1992年11月9日に大山田イモ畑の中にある休耕地で採餌している1個体を目撃した。県内では八重山諸島においてはふつうに生息する留鳥であるが、それ以外ではまれに冬場に渡来してくる漂鳥とされているので、本地域でもそうした個体が目撃されたのであろう。

3, ガンカモ類

本地域で確認されたガンカモ類は、過去にアカツクシガモ、オカヨシガモ、シマアジ、ウミアイサ、マガソ、ヒシクイなど5種が渡来している。しかし、調査期間に確認したガンカモ類はヒドリガモとハシビロガモ、シマアジ、カルガモ、オナガガモ、コガモの6種であり、前述したようにガンカモ類は合計11種あった。この中でオカヨシガモ、ウミアイサなどの最近の記録はない。このことは本地域は以前には自然海岸があり、干潮時にリーフが出現して、ここで休息及び餌を探るガンカモ類が見られたが、現在海岸線の大部分が埋め立てられ、また護岸やマリーナ等の建設によって、こうした場所が喪失していることと関連があろう。

ここでは記録的に興味深いと思われる3種について述べる。

(1) アカツクシガモ *Tadorna ferruginea*

1986年1月に宇地泊の田イモ畑の中にある休耕地で採餌している1個体を目撃した。本種は日本版レッドデータブック（環境庁、1991）に希少種として上げられている貴重種で、沖縄にはまれに冬鳥として渡来する。最近の観察記録は金武町水田で1羽の例（沖縄野鳥研究会、1993）や名護市の我部祖河で3羽の例がある（嵩原、1992）。

(2) マガソ *Anser albifrons frontalis*

1992年2月に宇地泊の田イモ畑の中にある休耕地で、採餌している1個体が目撃され、写真撮影されている（沖縄野鳥研究会、1986）。県内ではまれに渡来する迷鳥で、八重山諸島の石垣島（八重山野鳥の会、1983）や宮古島（1981年1月14日）、糸満市（沖縄野鳥研究会、1993）などで記録がある。国指定の天然記念物である。

(3) ヒシクイ *Anser fabalis serrirostris*

1992年11月24日に大山田イモ畑の中にある休耕地で採餌している1個体を目撃した。同個体は、3日ほど滞在したが、農地の枯れ草を燃やす煙に驚き飛去した。

大型のガンカモ類で、沖縄にはまれな冬鳥として渡来し、県内各地で記録がある。

4, シギ類

本地域ではオグロシギ、オオハシシギ、ヘラシギなど13種のシギ類が確認された。ここでは記録的に興味深いと思われる以下の4種について述べる。

(1) セイタカシギ *Himantopus himantopus himantopus* (Photo. 5)

1992年11月に宇地泊の田イモ畑の中にある休耕地で、採餌している4個体を目撃した。県内ではまれな旅鳥及び冬鳥として渡来し、県内各地で記録がある。これまで沖縄本島では毎年小数が観察され、個体数も多くなかったが、1993年10月から1994年1月にかけては東風平町の報得川で30羽以上の群れが観察された。

(2) エリマキシギ *Philomachus pugnax* (Photo. 6)

1992年11月16日に宇地泊で、1991年11月16日に大山で1羽目撃した。県内にはまれな旅鳥として渡来するが、宇地泊ではしばしば渡りの時に立ち寄るので、観察される機会が多い。

(3) オグロシギ *Limosa limosa melanurooides* (Photo. 7)

1986年1月に宇地泊の田イモ畑や休耕田で採餌している1個体（夏羽）を目撃した。本種はまれな旅鳥として県内各地に渡来する。記録的には1981年6月に宮古島空港（久貝勝盛氏私信）や漫湖干潟と糸満市西崎（沖縄野鳥研究会、1993）、名護市屋我地内海干潟（1993年9月）などで観察されている。

(4) オオハシシギ *Limnodromus scolopaceus* (Photo. 8)

1986年1月に宇地泊の田イモ畑の中にある休耕地で採餌している1個体を目撃した。県内ではまれな冬鳥として渡来するが数は少なく、この記録以降県内での最近の観察はみられない。

5. ヒタキ類

森林地域を欠くので、ヒタキ類の確認は少なかったが、ここでは2種について述べる。

(1) オオヨシキリ *Acrocephalus arundinaceus orientalis* (Photo. 9)

1992年10月26日に伊佐の住宅地に囲まれたパラグラスが生い茂る空き地で1羽が目撃された。県内ではまれな冬鳥で、主にアシの原にすむ。伊佐で目撃された個体は移動中の個体と思われ、越冬することはなかった。

(2) ノゴマ *Erithacus calliope*

1993年2月3日に大山の田イモ畑に隣接する草地で鳴き声が聞かれた。県内では冬鳥として渡来するが、数は少ない。

6. アマツバメ *Apus pacificus kurodae* (Photo. 10)

アマツバメ類はアマツバメの1種だけの確認であった。本種は1993年4月12日に伊佐の県道沿いで数羽の群れが目撃された。

(2) 哺乳類調査の結果と考察

本調査では調査の重点を鳥類に置いたため十分な生息調査ができなかった。しかし、調査の結果、オリイオオコウモリ、イエコウモリ、リュウキュウジャコウネズミ、ドブネズ

ミの4種の生息を確認した。これは今後調査をすすめていけば種数がさらに増えることが予想される。以下生息の確認された哺乳類の中で3種の生息状況について述べる。

1, オリイオオコウモリ *Pteropus dasymallus inopinatus*

1992年9月20日と12月2日に伊佐地区にある「なりせ通り（遊歩道）」に植栽されたモモタマナ（コバティシ）を採食している1個体が目撃された。また、1993年8月には海浜公園に植栽されたフクギの果実を採食している個体をしばしば目撃し、同公園内や隣接する児童公園のコバティシの樹下にペリット（食べかす）が確認された（Fig. 1）。したがって、本種は本地域を餌場として利用していると考えられた。

1992年9月21日の日中には、大山にある田イモ畑沿いの電線にぶら下がった1個体が目撲された（Photo.11）。この行動は休息行動と思われるが、本種は通常広葉樹が密生したうす暗い林内で休息するので、道路沿いの電線という場所で休息していることについてはどう解釈してよいか不明な点がある。

本種の休息地やねぐらとしては、隣接する普天間飛行場の西側にあたる琉球石灰岩がけずられてできら段丘状に発達した地域の森林部と考えられる。ここは墓地となっていて、森林地域が南北にベルトにひろがっている地域である。したがって、他に森林地域が見あたらないので、ここを起点に本種の活動が行われていると思われる。。

2, イエコウモリ（アブラコウモリ） *Pipistrellus abramus*

1992年9月20日、21日、23日、27日や10月1日、10月8日、12月2日の夕刻に、大山の田イモ畑や国道沿いの水路、伊佐側の海岸線などで採餌している小型コウモリ類をしばしば目撃した（Fig. 1, Photo.12）。その飛翔が目撃された時間は、9月23日が18時45分、9月27日が18時49分、10月1日が18時40分であった。したがって、日没間もない薄暮の頃から活動を開始していると思われた。なお、9月24日には早朝5時35分頃まで活動していた個体も目撃された。

本種は丸山勝彦氏（私信）によれば、超音波の周波数帯、音色、飛び方などから判断してイエコウモリであろうとしている。また、沖縄本島におけるイエコウモリの報告はここ数十年なく、生息を再確認する貴重な目撃であるとつけ加えている。

大山の田イモ畑では多い日で11頭（1993/9/23）も目撃されたので、田イモ畑や水路沿いなどが、夏場における重要な餌場となっていることが考えられ、これは餌となる飛翔性の小昆虫（ユスリカ類）が発生する田イモ畑や水路、湿地等の存在する環境が生息地や餌場としての良好な条件を備えていると考えられる。

本種は住宅地域の屋根裏などを主な休息地やねぐらにしていること知られている（谷口ら, 1988）。したがって、田イモ畑に隣接する住宅地や工場群などが、本種にとって良好な休息地及びねぐらを提供していると思われる。しかし、休息地やねぐらについては特定

していない。

3, リュウキュウジャコウネズミ *Suncus murinus riukiuanus*

沖縄にすむ数少ない食虫目トガリネズミ科の哺乳類である。本種は夜行正性で、1992年9月21日や1992年10月8日に大山の田イモ畑や国道沿いの水路脇などで日没後に採餌している個体を目撃した。出現した場所はパラグラスやススキの密生した草地であった。

調査の課題

1. 鳥類調査

- (1) 今回の調査は鳥類の目撃記録を中心にまとめたものであり、季節的な鳥類の出現についてはそれを検討する資料が乏しく詳細に言及できなかった。したがって、今後本地域における鳥類の季節的な出現について、さらに調査する必要性がある。
- (2) 今回の調査では95種の鳥類を確認し、暫定的な鳥類目録を作成した。しかし、この目録はわずか4年間の記録であり、さらに調査を継続していくば新たな鳥類の確認記録が増えていくことが予想される。したがって、継続的に調査を実施する必要性がある。

2. 哺乳類調査

- (1) イエコウモリについては、捕獲して計測するなど種の同定をさらに詳細に検討する必要がある。また、本種が本地域をどのように利用しているのかその生態的な行動圏を把握するための生態的な調査を行う必要がある。それには前提条件として個体識別を行うことが重要な課題になる。
- (2) オオコウモリについては、本地域における生息実態を把握するため、行動圏の把握や季節的な食性変化と休息場所の特定などが課題になろう。
- (3) 本地域からは4種の哺乳類が確認されたが、さらに4種以外の哺乳類が生息している可能性がある。したがって、継続的に調査を進めていくことにより、本地域の哺乳類相を明らかにすることができるよう。

〈要約〉

- 1、宜野湾市伊佐・大山・宇地泊地域で1991年から1994年まで鳥類及び哺乳類調査を実施した。
- 2、調査の結果、鳥類ではムラサキサギ、ヒシクイなど7目28科95種、哺乳類ではオリオオコウモリ、イエコウモリなど4科4種を確認した。確認された鳥類の内訳は、留鳥21種、夏鳥4種、旅鳥及び冬鳥68種、迷鳥2種であった。哺乳類の中では、イ

エコウモリの生息確認が沖縄島における数十年ぶりの記録である。

3、本地域は良好な野鳥の生息地や渡来地であり、また数少ない哺乳類やそれ以外の生物の生息地となっている。このことはまた自然観察の場所としても最適な場所である。したがって、現在の土地利用を維持しながら環境保全を図り、有効利用していく必要性を指摘した。

〈参考文献〉

- 沖縄野鳥研究会編. 1986. 沖縄県の野鳥 沖縄野鳥研究会, pp265.
- 沖縄野鳥研究会編. 1993. 改訂沖縄県の野鳥 沖縄出版, pp299.
- 環境庁編. 1991. 日本の絶滅のおそれのある野生生物一レッド データブックー, p93,
環境庁自然保護局野生生物課.
- 宜野湾市建設部都市計画課編. 1991. 宜野湾市水とみどりの基本計画, 宜野湾市, pp162.
- 八重山野鳥の会編. 1983. 八重山地方鳥類目録, 10周年記念誌. 八重山野鳥の会, pp75.
- 嵩原建二. 1992. 最近沖縄で確認された迷鳥, 博友第7号, 沖縄県立博物館友の会, 83-85.
- 谷口勝直・峯岸秀雄・木下あけみ. 1988. アブラコウモリ生態資料, 一川崎市中原区小杉
陣屋町付近における一その(1)密度, 川崎市青少年科学館年報(5): 23-30. 川
崎市青少年科学館.

Plate. 1, Interesting Birds in these areas



Photo. 3, カワセミ (大山)
Alcedo atthis bengalensis



Photo. 4, ムラサキサギ (大山)
Ardea purpurea manilensis



Photo. 5, セイタカシギ (宇地泊)
Himantopus himantopus himantopus

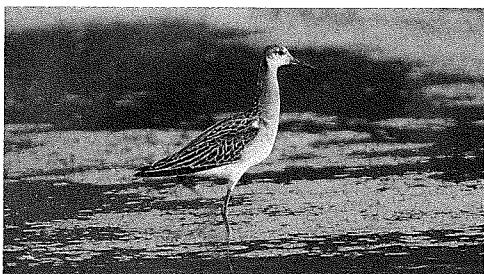


Photo. 6, エリマキンギ (大山)
Philomachus pugnax



Photo. 7, オグロシギ (宇地泊)
Limosa limosa melanuroides



Photo. 8, オオハシシギ (宇地泊)
Limnodromus scolopaceus



Photo. 9, オオヨシキリ (伊佐)
Acrocephalus arundinaceus orientalis

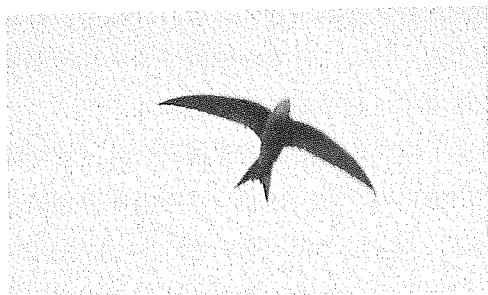


Photo.10, アマツバメ (伊佐)
Apus pacificus Kurodae

Plate. 2, Interesting Mammals in these areas

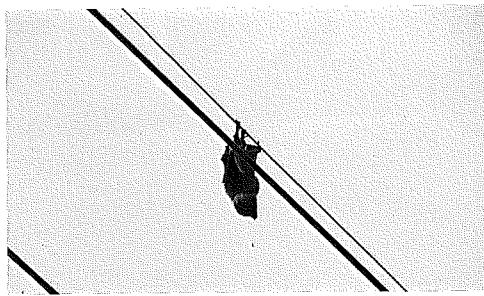


Photo.11, オリイオオコウモリ (大山)
Pteropus dasymallus inopinatus

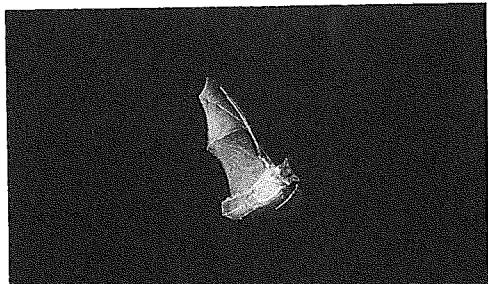


Photo.12, イエコウモリ (大山)
Pipistrellus abramus

伊佐・大山・宇地泊の鳥類目録（暫定）

Check list of birds in Isa, Oyama and Ushidomari.／凡例：順序は種別、確認場所、日付、個体数

コウノトリ目 CICONIIFORMES

サギ科 ARDEIDAE

1. リュウキュウヨシゴイ *Ixobrychus cinnamomeus* (GMELN)

留鳥：アシ原や河川などの湿地で生息する。赤褐色の鳥で、草地にいて外敵が近づくとくちばしを上にのばしてじっとしている習性（擬態）がある。

伊佐 1993/8(1)

大山 1992/4/16(2)

宇地泊1991/12/3(1), 1994/1/7(1)

2. ゴイサギ *Nycticorax nycticorax nycticorax* (LINNAEUS)

旅・冬鳥：県内各地に渡来する。夜に活動し、ガ-、ガ-と一声鳴きながら飛び回る。方言名の「ユーガラサー」はこの鳥。

大山 1992/9/21(1), 1992/4/22(1)

3. ササゴイ *Butorides striatus amurensis* (SCHRENCK)

旅・冬鳥：9月頃から渡来し、河川や田イモ畑などで見られる。背中に筐状の羽がある。

伊佐 1992/4/12(1), 1991/11/9(1)

大山 1992/9/22(1),

宇地泊1993/12/12(1)

4. アマサギ *Bubulcus ibis coromandus* (BODDAERT)

旅鳥：全身白色のサギの仲間。夏羽は頭から首、背中などが薄いだいたい色になる。草原や田イモ畑などで小群で見られる。

大山 1992/4/26(4), 1991/5

5. ダイサギ *Ardea alba modesta* (LINNAEUS)

冬鳥：全身白色になるサギの仲間では最大の種。長い足と首を持ち、河口近くにすむ。

伊佐 1993/12/2(1)

大山 1992/11/9(1)

宇地泊1994/2/11(2)

6. チュウサギ *Egretta intermedia intermedia* (WEGLER)

旅鳥：全身白色になるサギの仲間では中型の種で、くちばしの先端が黒くなる。タイモ畑や草原でみられる。

大山 1992/4/26(4), 1992/4/26(1), 1992/11/9(3)

宇地泊1993/12/12(1)

7. コサギ *Egretta garzetta garzetta* (LINNAEUS)

旅鳥：全身白色になるサギの仲間では小型の種で、足の指が黄色になる。

河川や干潟、田イモ畑で見られる。

大山 1992/4/12(1), 1992/4/16(3)

宇地泊1993/11/4(1)

8. クロサギ *Egretta sacra sacra* (GMELIN)

留鳥：海岸近くにすむサギの仲間。黒色型と白色型の2つのタイプがある。

宇地泊1992/11/16(1)

9. アオサギ *Ardea cinerea jouyi* CLARK

冬鳥：サギの仲間では最大の種。全身グレー色で干潟や河川でくらす。

宇地泊1993.11.12, 1992.10.12 (宮城邦治私信)

10. ムラサキサギ *Ardea pupurea manilensis* MEYEN

留鳥：海岸近くのマングローブ林や水田近くにすむ大型のサギ。八重山地方では留

鳥であるが、それ以外では冬場に漂鳥として渡来する。

大山 1992/11/9(1)

ガンカンモ目 ANSERIFORMES

ガンカモ科 ANATIDAE

11. マガソ *Anser albifrons frontalis* BAIRD

冬鳥：大型のガンカモの仲間。数少ない冬鳥として水田や河口に渡来する。国の天然記念物。

宇地泊、沖縄野鳥研究会 (1986)

12. ヒシクイ *Anser fabalis serrirostris* SWINHOE

冬鳥：大型のガンカモの仲間。数少ない冬鳥として水田や河口などに渡来する。

大山 1992/11/24(1)

13. アカツクシガモ *Tadorna ferruginea* (PALLAS)

冬鳥：中型のガンカモの仲間で、全身赤かっ色。まれな鳥として水田や田イモ畑などに渡来する。

宇地泊1986.1

宇地泊、沖縄野鳥研究会 (1986)

14. カルガモ *Anas poecilorhyncha zonorhyncha* SWINHOE

留鳥及び冬鳥：水田や田イモ畑、河川、ダム湖などでみられる。沖縄には留鳥として生息するものもいるが、冬鳥として渡来する個体が多いと思われる。

宇地泊1994/1/9(3)

15. コガモ *Anas crecca crecca* LINNAEUS

冬鳥：小型のカモの仲間。小群をつくって河口やダム湖などに生息する。数は多い。

宇地泊1992/10(1)

16. オカヨシガモ *Anas strepera strepera* LINNAEUS

冬鳥：中型のカモの仲間。小群をつくって海岸や河口、ダム湖などに生息するが、数は少ない。雄は全身灰色かかる細かな斑紋を持つ。

宇地泊、沖縄野鳥研究会（1993）

17. ヒドリガモ *Anas penelope* LINNAEUS

冬鳥：中型のカモの仲間。ふつうに小群をつくって河口やダム湖などに生息する。雄は額が白くなる。

宇地泊1991/12/3(1), 1993/11/14(4)

18. オナガガモ *Anas acuta acuta* LINNAEUS

冬鳥：中型のカモの仲間。小群をつくって海岸や河口、ダム湖などに生息するが、比較的数が多い。雄は首が白くなり、尾が長い。

宇地泊1994/1/9(3)

19. シマアジ *Anas querquedula* LINNAEUS

冬鳥：小型のカモの仲間。小群をつくって水田、田イモ畑などに生息する。コガモに似るが、眉斑が目立つ。

宇地泊1992/10/2(1), 沖縄野鳥研究会（1986）

20. ハンビロガモ *Anas clypeata* LINNAEUS

冬鳥：中型のカモの仲間。河口干潟やダム湖などに生息するが、数は少ない。くちばしが太くて広い。

大山 1993/10/5(1)

21. ウミアイサ *Mergus serrator* LINNAEUS

冬鳥：中型のガンカモの仲間。まれな冬鳥として河口や海岸などに渡来する。冠羽がければ立つ。

宇地泊、沖縄野鳥研究会（1986）

ワシタカ目 FALCONIFORMES

ワシタカ科 ACCIPITRIDAE

22. ミサゴ *Pandion haliaetus haliaetus* (LINNAEUS)

冬鳥：中型のワシタカの仲間。餌は魚食が主体で、海岸近くやダム湖などに生息する。

宜野湾市民体育館1993/1/10(1)

大山 1993/12/11(1)

23. リュウキュウツミ *Accipitaer gularis iwasakii* MISHIMA

留鳥：小型のワシタカの仲間。沖縄で繁殖する数少ない猛禽類で、森林地域に生息する。

伊佐 1993/11/29(1)

24. サシバ *Butastur indicus* (GMELIN)

旅・冬鳥：中型のワシタカの仲間。秋（寒露）の渡りは良く知られている。農耕地や森林地域などに生息するが、道路脇の電柱や電線にもよくとまる。

大山 1991/11/9(1), 1993/12/18(1)

ハヤブサ科 FALCONIDAE

25. ハヤブサ *Falco pergrinus japonensis* GMELIN

冬鳥：小型のワシタカの仲間。数少ない冬鳥として渡来し、農耕地や草原に生息する。獲物を蹴り落として餌を探る。

宇地泊1994/1/16(1)

26. チョウゲンボウ *Falco tinnunculus interstinctus* HORSFLID?

冬鳥：小型のワシタカの仲間。農耕地や草原に生息し、ホバリングしてエサを採る。

宜野湾市民体育館1993/1/10(1)

伊佐 1993/12/5(1)

宇地泊1993/11/14(1)

ツル目 GRUIFORMES

クイナ科 RALLIDAE

27. リュウキュウヒクイナ *Porzana fusca phaeopyga* STEJNEGER

留鳥：県内各地で生息し、全身赤褐色。数は多いが警戒心が強く、見る機会は少ない。

宇地泊1992/11/16(1) 雌3確認（繁殖）

28. シロハラクイナ *Amaurornis phoenicurus chinensis* (BODDAERT)

留鳥：県内各地で繁殖し、数が多い。草地、農耕地、水田などにすむ。胸から腹にかけてけ白くなる。

大山 1992/4/19(1)

29. バン *Gallinula chloropus indica* BLYTH

留鳥：最も普通に県内各地の水田や湿地、河川などで生息する。方言名「クミラー」。
主に大山や宇地泊の田イモ地域で見られ、雛も確認された。（繁殖）

大山 1992/4/16(4), 1992/9/8(4)

宇地泊1992/11/16(8)

チドリ目 CHRADRIIFOMES

レンカク科 JACANIDAE

30. レンカク *Hydrophasianus chirurgus* (SCOPOLI)

迷鳥：分布は東南アジアやインドで日本ではきわめてまれしか見られない。沖縄では、名護や宮古島、沖縄島北部の金武や喜如嘉などで記録がある。

宇地泊1987/5/26(1)（比嘉邦昭私信）

タマシギ科 ROSTRATULIDAE

31. タマシギ *Rostratula benghalensis benghalensis* (LINNAEUS)

留鳥：中型のシギの仲間で、水田、湿地などに生息する。雄が抱卵・子育てを行い、「一妻多夫」という繁殖生態を持つ。数は少ない。

宇地泊1992/9/4(1)

チドリ科 CHARADRIIDAE

32. コチドリ *Charadrius dubius curonicus* GMELIN

旅鳥及び冬鳥：普通に県内各地の水田、タイモ畑などに渡来し、数が多い。

方言名はチドリ全般をさす「チジュヤー」。目のまわりに黄色のリングができる。

宇地泊1992/11/16(4), 1992/10/4(2)

大山 1993/12/11(12)

33. ハジロコチドリ

旅鳥及び冬鳥：まれに県内各地の水田や田イモ畑などに渡来するが、数は少ない。

宇地泊, 沖縄野鳥研究会 (1986)

34. シロチドリ *Charadrius alexandrinus nihonensis* PEIGNAN

留鳥: 最も普通に県内各地の海岸や草地、水田、湿地などで生息する。沖縄では海岸近くの砂地や埋め立て地などで繁殖する。

宇地泊1992/10/4(1)

大山 1992/11/9(1)

35. メダイチドリ *Charadrius mongloius stegmanni* PORTEHKO

旅鳥: 県内各地の海岸、干潟などに渡来する中型のチドリ。

宇地泊1991/12/3(1)

36. ムナグロ *Pluvialis dominica fulva* (GMELIN)

旅鳥及び冬鳥: 最もふつうに県内各地の草地、水田、田イモ畑などに渡来するが、数は多い。

宇地泊, 沖縄野鳥研究会 (1986)

宇地泊1992/11/16(5)

大山 1992/9/8(8)

37. ダイゼン *Pluvialis Squatarola* (LINNAEUS)

冬鳥: 最もふつうに県内各地の河口干潟や田イモ畑などに渡来するが、数は多い。

宇地泊1991/12/1(1)

38. タゲリ *Vanellus vanellus* (LINNAEUS)

冬鳥: ふつうに県内各地の河口干潟や水田、田イモ畑などに渡来するが、数は少ない。頭の飾り羽（冠羽）がめだつ。

宇地泊, 1992.10.12, 1993.1.5 (宮城邦治私信)

シギ科 SCOLOPACIDAE

39. キョウジョシギ *Arenaria interpres interpres* (LINNAEUS)

旅鳥: 中型のシギの仲間で、河口干潟や海岸などに渡来するが、数は多い。宇地泊の海岸近くで海草をひっくり返して餌を探る小群が目撃された。

宇地泊1993/11/14, 1992/10/4(1)

40. トウネン *Calidris ruficollis* (PALLAS)

冬鳥: 小型のシギの仲間で、ふつうに県内各地の河口干潟や水田、田イモ畑などに渡来するが、数は多い。

宇地泊1993/12/3(3), 1992/11/16(1)

大山 1992/9/22(3)

41. ヒバリシギ *Calidris minutilla subminuta* (MIDDENDORFF)

冬鳥：小型のシギの仲間で、県内各地の河口干潟や水田、田イモ畑などに渡来するが、数は少ない。

宇地泊1992/5/10(3)

宇地泊、沖縄野鳥研究会（1986）

大山 1992/4/26(6), 1992/9/8(1), 1992/11/9(2)

42. オジロトウネン *Calidris temminckii* (LEISLER)

冬鳥：小型のシギの仲間で、県内各地の河口干潟や水田、田イモ畑などに渡来するが、数は少ない。背中の羽は灰色がかる。

宇地泊1992/5/10(1)

宇地泊、沖縄野鳥研究会（1986）

43. ハマシギ *Calidris alpina sakhalina* (VIEILLLOT)

冬鳥旅鳥：中型のシギの仲間で、ふつうに県内各地の海岸、河口干潟や水田、田イモ畑などに渡来する。20羽内外の群れで採餌することが多く、田イモ畑で見られた。

宇地泊、沖縄野鳥研究会（1986）

宇地泊1991/11/16(11), 1993/12/19(17)

大山 1991/11/16(1)

44. エリマキシギ *Philomachus pugnax* (LINNAEUS)

旅鳥：中型のシギの仲間で、河口干潟や水田、田イモ畑などに渡来するが、数は1－2羽と少ない。

宇地泊1992/11/16(1), 1992/11/4(2), 1992/11/7(1)

大山 1992/9/8(1), 1991/11/16(1)

45. ツルシギ *Tringa erythropus* (PALLAS)

旅鳥：中型のシギの仲間で、河口干潟や水田、田イモ畑などに渡来するが、数は少なく、まれな旅鳥である。くちばしや足が長く、スマートなシギ。

宇地泊、沖縄野鳥研究会（1993）

46. アカアシシギ *Tringa totanus eurhinus* (OBERHOLSER)

旅鳥：中型のシギの仲間で、河口干潟や水田などに渡来するが数は少ない。足が黄色味がかる薄いだいだい色をしている。

宇地泊1992/10/4,

47. コアオアシシギ *Tringa stagnatilis* (BECHSTEIN)

旅鳥：中型のシギの仲間で、河口干潟や水田、田イモ畑などに渡来するが、数は少

ない。アオアシシギよりほっそりしていて、くちばしも細くまっすぐ。

宇地泊1992/10/24(1)

48. アオアシシギ *Tringa nebularia* (GUNNERUS)

冬鳥及び旅鳥：中型のシギの仲間で、ふうつに河口干潟や水田、田イモ畑などに渡来するが、数は少ない。足が青みがかり、くちばしがやや上にそる。

宇地泊1992/11/16(4)

大山 1992/9/8(1), 1992/9/22(1), 1992/11/9(1)

49. クサシギ *Tringa ochropus* LINNAEUS

冬鳥及び旅鳥：中型のシギの仲間で、河口干潟や水田、田イモ畑などに渡来するが、数は多い。体色は灰青色で、イソシギにくるがやや大きい。

大山 1992/9/22(1)

50. タカブシギ *Tringa glareola* LINNAEUS

冬鳥及び旅鳥：中型のシギの仲間で、ふつうに河口干潟や水田、田イモ畑などに渡来し、数は多い。

宇地泊1992/11/16(1), 1993/11/14, 1992/10/7(5)

大山 1992/4/16(10), 1992/9/8(2), 1992/9/22(4), 1992/11/9(3)

51. キアシシギ *Tringa brevipes* (VIEILLOT)

旅鳥：中型のシギの仲間で、河口干潟や海岸などに渡来するが、数は多い。

宇地泊1992/5/10(2)

大 山1992/9/22(1)

52. イソシギ *Triga hypoleucus* LINNAEUS

冬鳥及び旅鳥：中型のシギの仲間で、ふつうに河口干潟や水田、田イモ畑などに渡来する。数は多い。脇から肩に入り込むような白い羽が目立つ。

宇地泊1992/11/16(3)

大山 1992/4/16(10), 1992/9/22(1), 1992/11/9(7)

53. チュウシャクシギ *Numenius phaeopus variegatus* (SCOPOLI)

旅鳥：大型のシギの仲間で、河口干潟や海岸などに渡来するが、数は少ない。下にカーブする細長いくちばしを持つ。

宇地泊1993/11/14(1), 1994/2/9(1)

54. タシギ *Gallinago gallinago* (LINNAEUS)

冬鳥及び旅鳥：中型のシギの仲間で、ふつうに河口干潟や水田、湿地などに渡来し、数は多い。細長くまっすぐなくくちばしを持つ。

宇地泊1992/11/16(2), 1993/11/14

大山 1992/4/16(2), 1992/9/8(1), 1992/11/9(2)

55. タシギの一種 *Gallinago sp*

冬鳥及び旅鳥：タシギ同様、河口干潟や水田、湿地などに渡来するジシギ類には、ハリオシギ、チュウジシギなどあるが、それらの種を野外識別することは困難である。ここではそうしたシギ類の一種と思われる種も見られる。

宇地泊1994/1/26(2)

56. ヘラシギ *Eurynorhynchus pygmeus* (LINNAEUS)

旅鳥：小型のシギの仲間で、河口干潟や水田、湿地などに渡来するが、非常にまれ。くちばしがスプーン状になっている。

宇地泊, 沖縄野鳥研究会 (1986)

57. オグロシギ *Limosa limosa melanuroides* GOULD

旅鳥：中型のシギの仲間で、河口干潟や草原などに渡来するが、数は少ない。まっすぐな細長いくちばしを持つ。宇地泊では夏羽の個体が見られた。

宇地泊1984/12/25(1)

58. オオハシシギ *Limnodromus scolopaceus* (SAY)

冬鳥及び旅鳥：中型のシギの仲間で、河口干潟や草原などに渡来するが、数は少ない。

宇地泊, 沖縄野鳥研究会 (1986)

宇地泊, 1986/1(1)

セイタカシギ科 RECURVIROSTRIDAE

59. セイタカシギ *Himantopus himantopus himantopus* (LINNAEUS)

冬鳥及び旅鳥：大型のシギの仲間で、河川、河口干潟、水田、田イモ畑などに渡来するが、数は少ない。背中は黒色で、まっすぐな細長い足とくちばしを持つスマートなシギ。

宇地泊, 1992/11/11(4), 1993/10/31(2)

ヒレアシシギ科 PHALAROPODIDAE

60. アカエリヒレアシシギ *Phalaropus lobatus* (LINNAEUS)

旅鳥：主に海上を通過していくが、内陸の水田の水たまりなどに飛来する個体がし

しばしば目撃される。

宇地泊1993/6/1(1) 若鳥

カモメ科 LARIDAE

61. セグロカモメ *Larus argentatus vegae* PALMEN

冬鳥：大型のカモメの仲間で、海岸線を飛翔しながら餌を採る。まれな冬鳥として渡来するが、幼鳥が多い。

海浜公園人工ビーチ，1993/2/16(1)

62. ウミネコ *Larus crassirostris* VIEILLIOT

冬鳥：大型のカモメの仲間で、海岸、干潟、埋め立て地などにまれに渡来する。

宇地泊，1992/10/4(1)

63. オオアジサシ *Sterna bergii cristata* STEPHENS

迷鳥：まれに沖縄近海でみられる大型のアジサシ。沿岸部海岸線に近づく時、しばしば目撃される。

宇地泊，1987/12/19(1)（大城亀信私信）

64. ベニアジサシ *Sterna dougallii bangsi* MATHEWS

夏鳥：海岸や岩礁でみられるアジサシの仲間で、沖縄には夏場渡来し、岩礁で繁殖する。くちばしと足が赤味を帯びる。

海浜公園人工ビーチ，1993/8(1)

65. エリグロアジサシ *Sterna sumatrana sumatrana* RAFFLES

夏鳥：海岸や岩礁でみられるアジサシの仲間で、沖縄には夏場渡来し、海岸近くの岩礁で繁殖する。くちばしと足は黒く、えりも黒い。

海浜公園人工ビーチ，1993/8(1)

66. クロハラアジサシ *Sterna hybrida javanica*

旅鳥：海岸線や河川、ダム湖、水田などでみられるアジサシの仲間。数は少なく、亞成鳥が観察される機会が多い。海浜公園の池で若鳥が目撃された。

海浜公園 1992/9/22(1)

ハト目 COLUMBIFORMES

ハト科 COLUMBIDAE

67. リュキュウキジバト *Streptopelia orientalis stimpsoni* (STEJNEGER)

留鳥：住宅地や農耕地、森林地域などにすむ。最も普通に見られる。

宇地泊1992/10/4(1)，1994/1/9(1)

大山 1992/4/16(4), 1992/9/8(1), 1992/11/9(2)
伊佐 1994/2/6(2)

ホトトギス目 CUCULIFORMES

ホトトギス科 CUCULIDAE

68. ホトトギス *Cuculus poliocephalus poliocephalus* LATHAM

夏鳥：初夏に渡来するが、沖縄で繁殖しているかどうかについては不明。

他の鳥に卵を預け、孵化・育雛させる習性（託卵）がある。伊佐で夜間鳴き声を聞く。

伊佐 1992/5(1),

アマツバメ目 APODIFORMES

アマツバメ科 APODIDAE

69. アマツバメ *Apus pacificus kuyodae* (Domaniewski)

旅鳥：本地域には初夏に渡来すると思われ、伊佐の道路沿いで群れで確認された。

伊佐 1993/4/7(7), 1993/4/12(10+)

ブッポウソウ目 CORACTIFORMES

カワセミ科 ALCEDINIDAE

70. カワセミ *Alcedo atthis bengalensis* GMELIN

留鳥：県内各地の河川、沼地等で生息する。河川の汚濁が進行する市街地の河川で姿を見ることは少ない。全身瑠璃色。

大山 1991/12/3(1), 1993/12/25(1), 1994/1/15(1)

スズメ目 PASSERIFORMES

ツバメ科 HIRUNDINIDAE

71. ショウドウツバメ *Riparia riparia ijimae* (LONNBERG)

旅鳥：北海道で繁殖し、沖縄には旅鳥として、通過する。

大山 1992/11/9(3)

72. ツバメ *Hirundo rustica gutturalis* SCOPOLI

旅鳥：本土では夏鳥であるが、沖縄では初夏と秋口に渡来する旅鳥。

大山 1992/9/8(10)

宇地泊1992/10/4(1)

伊佐 1993/4/7(7)

73. リュウキュウツバメ *Hirundo tahitica namiyei* (STEJNEGER)

留鳥：分布は奄美大島以南の琉球列島から東南アジアで、県内ではふつうに繁殖分布する。ツバメに比べ腹の色が白くなく、汚れたように見える。

伊佐 1993/11/29(1)

宇地泊1992/11/16(5)

大山 1993/12/25(1)

セキレイ科 MOTACILLIDAE

74. マミジロツメナガセキレイ *Motacilla flava simillima* HARTERT

旅鳥及び冬鳥：県内各地の河川、水田、湿地などで生息する。全身グレー色で細身のセキレイの仲間。

大山 1992/9/22(1)

75. キセキレイ *Motacilla cinerea robusta* (BREHM)

旅鳥及び冬鳥：県内各地の河川、水田、湿地などで生息する。尾羽が長く、全身黄色味がかり、ほっそりしていてスマート。

宇地泊1991/11/16(1)

大山 1992/4/16(2)

伊佐 1993/12/25(1)

77. ハクセキレイ *Motacilla alba lugens* GLOGER

冬鳥：県内各地の河川、水田、湿地、畜舎近くなどで生息する。成鳥は尾羽が長く、体色は、白と黒灰色でスマート。若鳥は全身グレー。

宇地泊、沖縄野鳥研究会 (1986), 1994/2/11(1)

大山 1991/11/9(6)

伊佐 1994/1/5(1)

78. ムネアカタヒバリ *Anthus cervinus* (PALLAS)

冬鳥：草原、田イモ畑、水田などで生息する。数は少ない。

大山 1991/11/9(3)

79. タヒバリ *Anthus spinolella japonicus* TEMMINCK & SCHLEGEL

冬鳥：田イモ畑、水田などで小さな群で生息する。数は多い。

大山 1992/4/19(2)

ヒヨドリ科 PYCNONOTIDAE

80. シロガシラ *Pycnonotus sinensis* (GMELIN)

留鳥：住宅地、農耕地、森林地域などで見られる。もともと沖縄本島にいなかった鳥で、最近北部へ分布域を広げている。南部では野菜の食害がある。

大山 1992/4/16(2), 1992/9/8(1), 1992/11/9(2)

伊佐 1994/1/5(1)

宇地泊1993/12/28(2)

81. リュキュウヒヨドリ *Hypsipetes amaurotis pryeri* STEJNEGER

留鳥：住宅地、農耕地、森林地域などに生息する。方言名「スーサー」

宇地泊1994/2/11(1)

大山 1991/11/9(3), 1993/12/25(2)

伊佐 1993/12/25(3)

モズ科 LANIIDAE

82. アカモズ *Lanius cristatus superciliosus* LATHAM

旅鳥及び冬鳥：冬場に農耕地や灌木林近くで見られる。数は少ない。

大山 1991/12/3(1)

ヒタキ科 MUSCICAPIDAE

ツグミ亜科 TURDINAE

83. ノゴマ *Erythacus calliope* (PALLAS)

冬鳥：草原、アシ原、灌木林などで生息する。姿をみると少なく、さえずりが遠くまでよく響く。

大山 1993/2/3(1)

84. イソヒヨドリ *Monticola solitarius philippensis* (MULLER)

留鳥：もともと海岸近くの崖地が生息場所であるが、最近住宅地、農耕地などにも生息するようになった。雄は背中が青色で美しい。

宇地泊1992/10/4(1)

大山 1992/4/16(2), 1992/9/8(1), 1992/11/9(2)

伊佐 1994/2/7(1), 1993/1/30(1), 繁殖期のさえずり初認

85. シロハラ *Turdus pallidus* GMELIN

冬鳥：農耕地、森林、灌木林近くで生息する。全身緑褐色で腹部は白い。地上の枯れ葉をひっくり返して餌を探る。よく窓ガラスにぶつかり保護される。数が多い。

大山 1992/4/12(5), 1993/12/11(1)

ウグイス亜科 SYLVIINAE

86. リュウキュウウグイス *Cettia diphone riukiuensis* (KURODA)

留鳥：草原、灌木林、森林の林縁などで生息する。姿をみることは少なく、さえずりで近くにいることに気が付く。冬はチャ、チャと地鳴きをする。

宇地泊1992/11/16(2)

伊佐 1993/11/29(1), 12/11(1)

大山 1993/12/25(1)

87. オオヨシキリ *Acrocephalus arundinaceus orientalis* (TEMMINCK & SCHLEGEL)

冬鳥：数少ない冬鳥として草原、アシ原などで生息する。

伊佐 1992/10/26(1)

88. セッカ *Cisticola juncidis brunniceps* (TEMMINCK & SCHLEGEL)

留鳥：草原、農耕地などで生息する。ヒッ、ヒッととかチンチン、チンチンとさえずる。ヒバリと良くまちがえられるが、ヒバリは沖縄では冬鳥として渡来する。

宇地泊1992/11/16(1)

大山 1991/11/9(1), 1993/12/11(2)

伊佐 1993/12/25(1),

1994/2/19(2) フライングデイスプレイ初認

カササギヒタキ亜科 MONARCHINAE

89. リュウキュウサンコウチョウ *Terpsiphone atrocaudata illex* BANGS

夏鳥：森林地域に生息する。「ツキヒーホシホイホイ」との聞きなしがあり、「三光鳥」と呼ばれる。雄は長いリボンのような尾羽を持っている。

伊佐 1992/10/26(1) 落鳥保護

メジロ科 ZOSTEROPIDAE

90. リュウキュウメジロ *Zosterops japonica loochooensis* TRISTRAM

留鳥：もっとも身近な鳥の一つ。住宅地や農耕地、公園、森林地域などふつうに見られる。目のまわりが白色になっている。

宇地泊1994/1/16(1)

大山 1993/12/25(1)

伊佐 1993/12/25(1)

ハタオリドリ科 PLOCEIDAE

91. スズメ *Passer montanus saturatus* STEJNEGER

留鳥：もっとも身近な鳥の一つ。住宅地や農耕地、公園などふつうに見られる。

宇地泊1993/12/28(8)

伊佐 1993/12/11(7)

大山 1991/11/9(20+)

ムクドリ科 STURNIDAE

92. ムクドリ *Sturnus cineraceus* TEMMINCK

冬鳥：公園の草地や高木、電線などに群がり、移動しながら餌を採ったり、休息したりする。

大山 1993/4/13(30)

93. ホシムクドリ *Sturnus vulgaris* LINNAEUS

冬鳥：草原や農耕地などにまれに渡来する。

大山 1992/10/26(1)

カエデチヨウ科

94. アミハラ *Lonchura punctulata* ESTRILDIAE

留鳥：飼い鳥の野生化。住宅地空き地の草地や休耕地、田イモ畑で小さな群れで見られる。

宇地泊1993/12/28(6)

大山 1992/4/12(6), 1992/9/8(5)

伊佐 1991/11/9(3)

95. キンパラ *Lonchura malacca*

留鳥：飼い鳥の野生化。住宅地空き地の草地や休耕地、田イモ畑で小さな群れで見られる。アミハラの群れの中にいることもある。

大山 1992/4/12(1), 1992/9/8(5), 1991/11/9(2)

合計95種

種別：留鳥21種（飼い鳥の野生化含む）、夏鳥4種、旅及び冬鳥68種、迷鳥2種

地域別：大山49種、伊佐18種、宇地泊64種、海浜公園3種

伊佐・大山・宇地泊の哺乳類目録（暫定）

Check list of Mammals in Isa, Oyama and Ushidomari.

食虫目 INSECTIVORA

トガリネズミ科 SORICIDAE

- 1、リュウキュウジャコウネズミ *Suncus murinus riukiuanus*

翼手目 CHIROPTERA

大翼手亜目 SUBORDER MEGACHIROPTERA

オオコウモリ科 PTEROPIDAE

- 2、オリイオオコウモリ *Pteropus dasymallus inopinatus*

小翼手亜目 SUBORDER MICROCHIROPTERA

ヒナコウモリ科 VESPERTILONIDAE

- 3、イエコウモリ（アブラコウモリ） *Pipistrellus abramus*

げっ歯目 RODENTIA

ネズミ科 MURIDAE

- 4、ドブネズミ *Rattus novegicus*